**読書ノート　その43**

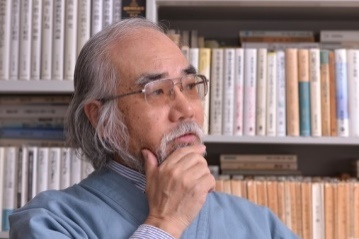
2020年7月23日　小林

　前回は西洋哲学史について報告しましたが、その勉強の過程で中島義道（元電通大教授）という哲学者を知りました。中島は主にカント関係の専門書のほか、『どうせ死んでしまうのに、なぜいま死んではいけないのか？』や『ウソつきの構造』など柔らかい本も数多く出しています。

　今回は、アメリカで黒人差別が大きな社会問題となっている中、中島の**『差別感情の哲学』（講談社学術文庫、2015年2月）**の要旨について報告いたします。

　企業においても、部落差別や女性差別、LGBT差別などは、コンプライアンス上問題となる可能性もあることから、『差別』という問題を哲学的に探究し、その問題の根っこを捉えたいと思います。

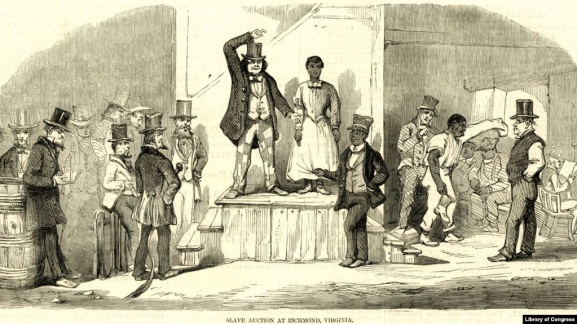
◀　中島義道は1946年生まれ、幼少のころから自分の死を意識しつつ東大教養学部哲学卒、その後同大法学部卒、同大学院哲学専攻に進むもガス自殺未遂。東大助手などを経て電通大教授、2009年退官。食べ物の8割は食べれないという大偏食家とのこと。また、駅や電車内のアナウンスを騒音だと抗議を繰り返している。



* さて、差別を語る前に、(1)**あなたに問います。**あなたは、「黒人」に対してどのような感情を持っていますか？　あるいは、どのようなイメージを持っていますか？　その感情とイメージを自己確認した上で、以下を読み進んでいってください。

* 差別感情は他人に対する否定的な感情から来るものです。具体的には、**不快・嫌悪・軽蔑、そして恐れ**です。なお、**個人に対する差別は、いじめ**であり、**集団に対する差別**がここで言う差別です。
* ちなみに、恐れが差別に発展した典型例は、ヒトラーのユダヤ人排斥・虐殺。ドイツ民族の純血が穢されるという恐れが排斥・虐殺に繋がった（その他の要素については、以下で触れます）。
* **最も悪質な差別**は、「差別はいけない」と認める一方で、結果的には差別している状態。具体例としては、大企業に在日韓国朝鮮人が就職するのは極めて困難であること。「私は差別感情は持ってませんよ」と言いながら、実態としては、在日を差別している。これが日本の実態。部落差別も同じ（同和問題）。
* 参考までに、私（小林）の父が転勤で大阪にいた頃（1970年代）、このように言っていました。「部落出身者は採用しない。周りの者は苗字や住所ですぐに部落出身者だと分かり、嫌がるから」。このようなことは、現在の大企業でもあるのではないだろうか。
* それでは、また、(2)**あなたに問います**。差別感情を持っていても、それを言葉や行動で表さなければよいのでしょうか？　在日が公平に扱われればよいのでしょうか？　部落出身者が公平に扱われれば、それで差別問題は解決されたことになるのでしょうか？　どう思いますか？
* 中島は言います。普通の教育・しつけは「差別的なことを言ってはいけない」とか「態度・行動に出してはいけない」と教えます。不快等の感情を持つ、持たないは心の問題なので、人の心をコントロールするのは難しい。だから、不快等の感情を言動に出すな、ということになる。しかし、これは表面をとりつくろう**通俗的な道徳**である。このような通俗的な道徳にとどまっていてよいのだろうか。
* まず、言葉の問題があります。**「ホモ」「朝鮮人」「黒人」「中卒」**等の言葉自体に否定的感情が付着していないだろうか。これらの言葉は本来は、その人の趣向や民族、学歴などなんらかの属性を表す中立的な言葉だが、そもそもの問題として否定的感情が付着している。この意味で、言葉の教育で差別感情を希薄化できる可能性はあるだろう。だから、魔女狩り的な「差別用語狩り」も意味のないことではない。ただし、中島自身は自分の原稿での経験に基づいて、「差別用語狩り」に対して良い感情は持っていない。
* 身体障害者への差別は、「ノーマライゼーション」という考え方で克服されてきた。つまり、身体障害者も健常者と同じ権利と可能性を持っているという考え方。その具体例はパラリンピック。しかし、**中島はパラリンピックの報道のあり方について「違和感あり」と批判しています**。健常者のオリンピックには醜いエゴも悲しいドラマも見られるのに、パラリンピックだと全光景が肯定的姿勢と歓喜に輝いている（そのように放送が伝える）。これは、ノーマライゼーションの行き過ぎであり、これではわれわれの内なる誠実性をしぼませるのではないだろうか（わざとらしさに対する違和感を感じてしまう）。
* A.ゴフマン（カナダ）という社会学者によれば、差別感情には「**異常者に思われたくない欲望**」がまとわり付いている。例えば、バスを待つ列に並んでいるときに、忘れ物に気付いて列を離れて家に引き返す場合、誰でもポケットやカバンの中を探す行為をしてから列を離れる。なぜなら、無言・無行為のまま列を離れると、それは不可解な行動であり、「変な人」と思われる可能性があるから。だから、「私は正常ですよ」というサインを送る。日常生活は、この種のサインに満ちあふれている。風でドアがバタンと閉まれば、その音の方向に目を向けるのも同じ。
* 逆に、われわれは、他人に「私は正常ですよ」というサインを発することを期待する。このサインがないと、「あいつは普通じゃない」というレッテルが貼られ、差別感情につながっていく。
* その一方で、われわれは他者から、「あいつは普通じゃない」というレッテルが貼られる不安に絶えず襲われている。と同時に、われわれは他者に対して儀礼として無関心の振りをする（儀礼的無関心）。
* **つまり、われわれは正常ですよというサインを送り合いながら、無関心な態度を取り、他人にもそれを要求している。これが現代社会である。**
* 参考までに、(3)**あなたに問います**。このA.ゴフマンの社会分析についてどう思いますか？　日本人にも当てはまると思いますか？　和辻哲郎の「人と人との間柄」や中根千枝の「タテ社会」等の社会分析と比べてどう思いますか？
* 上記のような社会の在り方は、学校でのいじめにも当てはまる。一人の生徒がなんらかの意味で「正常ではない」という理由で選ばれて、いじめられる（差別される）。すると、その他の生徒は自分を「正常」と確認することができて安心する。こうなると、そのいじめの構造は安定化してしまう。
* 中島は、「いじめてはいけません」と教えても、いじめはなくならない、小学校高学年になれば、いじめ発生の仕組みは理解できるので、発生の仕組みから教えるべきと提唱しています。
* さて、**米国における黒人差別を考えてみましょう。その起源は奴隷制度にあるが、その当時白人は黒人に対して差別意識はあったのか、なかったのか？　(4)あなたはどう思いますか？**　なお参考までに、「奴隷」とは、奴隷法（The Slavery Act）に基づき家畜と同様に動産として売買されていました。

◀米国での黒人奴隷の取引風景

* 以下は、**約120年前のブリタニカ百科事典**（1901年発行）の**『黒人（Negro）』**についての記述です（和訳）。なお、リンカーン大統領による奴隷解放宣言は、これに先立つこと約40年前の1862年に出されていました。

「**この不幸な人種(は)・・・・・怠惰、不実、復讐、残虐、厚顔、盗癖、虚言、淫乱、不潔、大酒・・・・・こうした性質は自然法の諸原則を覆し、良心の呵責を沈黙させた。彼らは思いやりという感情には無縁であり、放置された人間の腐敗の恐るべき標本である**」。

* このブリタニカ百科事典の記述は、白人が奴隷制という合法的差別制度に対して罪悪感を持っていたことを表しています。つまり、白人は、黒人を「劣った人間」と定義することにより、差別を正当化し、自分の罪悪感を軽減・消滅させた。この構造は、イエズス会や十字軍による血みどろの布教活動やヒトラーによるユダヤ人虐殺にも見られる。「邪教を信じている者は殺してよい」「ユダヤ人は劣等民族だから抹殺しなければならない」。
* **我思うに**、現代における黒人差別の背景には、ブリタニカ百科事典の記述のような「黒人のイメージ」が意識の底に残存していて、それがあることを契機に、行動に表れてしまうのではないか。ジョージ・フロイド事件のように白人警察官が黒人に対して過剰な制圧行為を加えるなど。
* 次に、ヨーロッパ中世の魔女狩りについて。中世には戦争、疫病、飢饉が続き、この**わざわい・不幸の原因を引き受ける者が求められました**。もともと、男たちは女に対して恐れを抱いていた。女の不思議な生殖能力に対する恐れ、男たちは女への欲望に負けて崇高な意思を萎えさせる恐れ。このような、(1)不幸の原因を引き受ける者、(2)女への恐れが、魔女を創り出し、それに対し神の裁きを加える＝魔女狩りを生んだ。魔女狩りは、キリスト教会が主導したのではなく、民衆の素朴な心情が主導した。
* 要するに、**正常ではない者を悪者にして、それに攻撃を加え取り除けば、民衆は安心できる**。この構造は、学校でのいじめにも共通する。
* **差別は、良いことを目指す、つまり向上心からも発生します**。子どもへの教育・しつけは、良いことを目指すのが基本。したがって、**差別意識を持つことは不可避**だと認識すべき。例えば、サッカーの上手な子はうまくできない子を見下す、将棋の強い子は下手な子を見下す、勉強のできる子はできない子を見下す。会社で出世した者は万年平社員を見下す。向上心旺盛な努力家は、毎日定時退社で有給休暇完全消化の者を見下す。
* 何かに秀でた特質を持つ人間は、普通は他者を見下す言動を表に出さないことを学んでいる。しかし、彼らは心の中では劣位にある者を見下している。このように、社会では、表面は見下していないが、心では見下している人間が育てられていく。**教育・しつけで彼らに「見下すな」と教えても、心にとどく言葉になるのだろうか。難しい問題がここにある。**
* **ヒトラーのナチズム思想の背景には、向上心があった**。当時のドイツは医学・科学技術において世界をリードしていて、国民は**清潔・健康への向上心**が高まっていた。ここでヒトラーは、ユダヤ人を「死体の中のうじ虫」「黒死病よりも悪質なペスト」と呼び、ユダヤ菌を排除すればドイツは健康を取り戻せると主張した。これと同時に、ヒトラーは**道徳的な向上心**にも訴えた。ユダヤ人には、「怠惰で不潔」というレッテルを貼り、ドイツ民族は勤勉で向上心を持っていると称賛した。ナチズム思想の支持層は、公務員・教師・実直な勤労者であり、これらの者はもともとまじめで向上心を持っている人たち。
* **向上心は努力に結び付く。努力して結果を出した者は称賛される。ここに差別の危険性がある。人間はもともと知的・肉体的能力に差異があるのは明らかなのに、結果を出せない者に「お前は努力したのかっ！」と迫っていく。しまいには、「怠け者」「能無し」「敗者」等のレッテルが貼られる。この「見えない差別」が社会に浸透している。**「怠け者」等と差別された者は、その差別を差別と認めてもらえず、不満はいっそう鬱積していく。その不満が爆発した典型例が、2008年の秋葉原クルマ暴走刺殺事件。（2019年の京都アニメ放火殺人事件も同じであろう。）
* 最後に、問います。**(5)差別と差別感情をなくすにはどうしたらよいでしょうか？**　中島の答えは、最後のページに書きます。

－－－－－－－－－－－－（本書の要旨はここまでです。）－－－－－－－－－－－－－－

* 答えを見る前に、日本での差別の現状（ほんの一部？）を見ておきましょう。

以下は、<https://sustainablejapan.jp/2019/12/18/global-gender-gap-report-2020/44753>よりコピーしたものです。

**世界「男女平等ランキング2020」、日本は121位で史上最低**

**G7ダントツ最下位で中韓にも負ける**

　世界経済フォーラム（WEF）は2019年12月16日、各国のジェンダー不平等状況を分析した「世界ジェンダー・ギャップ報告書（Global Gender Gap Report）2020」を発表し、毎年発表している2019年版「ジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index：GGI）」を公表した。対象は世界153カ国。

　ジェンダー格差が少ない1位から5位までは、アイスランド、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、ニカラグア。日本は121位（全153カ国）と昨年の110位から11順位を下げ、過去最低の順位となった。その他、ドイツ10位、フランス15位、カナダ19位、英国21位、米国53位、イタリア76位で、日本はG7の中で圧倒的に最下位。中国は106位、韓国は108位で日本より上だった。

　同指数では、「ジェンダー間の経済的参加度および機会」「教育達成度」「健康と生存」「政治的エンパワーメント」の4種類の指標を基に格差を算定し、ランキング付けされている。

※括弧内は昨年順位

1. アイスランド（1）
2. ノルウェー（2）
3. フィンランド（4）
4. スウェーデン（3）
5. ニカラグア（5）
6. ニュージーランド（7）
7. アイルランド（9）
8. スペイン（29）
9. ルワンダ（6）
10. ドイツ（14）
11. ラトビア（17）
12. ナミビア（14）
13. コスタリカ（22）
14. デンマーク（15）
15. フランス（18）
16. フィリピン（24）
17. 南アフリカ（19）
18. スイス（20）
19. カナダ（16）
20. アルバニア（34）
21. 英国
22. 米国
23. イタリア
24. ロシア
25. 中国
26. 韓国
27. 日本

　ランキングは、上位は例年通り北欧諸国。アイスランドは11年連続で首位の座についた。北欧諸国は、評価指標のうち最も差が出やすい「政治的エンパワーメント」で非常に高いスコアを叩き出している。また次に差が出やすい「経済的参加度および機会」でもスコアが高い。一方、「教育達成度」と「健康と生存」では、首位アイスランドから91位日本までの間ではほとんど差が出ていない。

　北欧諸国の中では相対的に順位の低い14位デンマークは「政治的エンパワーメント」が足を引っ張っている。逆に、上位にいるルワンダ、ナミビア等のアフリカ発展途上国は、内戦の影響で男性が多数命を落とした結果、女性の政治家や従業員割合が多くなり、「政治的エンパワーメント」と「経済的参加度および機会」のスコアが高い。

　日本は、2015年が101位、2016年が111位、2017年が114位と順位を落とし、2018年は110位に多少挽回、しかし今回121位に大きく転落した。日本の評価は、項目ごとに優劣がはっきりしている。読み書き能力、初等教育（小学校）、出生率の分野では、男女間に不平等は見られないという評価で昨年同様世界1位のランク。

　一方、中等教育（中学校・高校）、高等教育（大学・大学院）、労働所得、政治家・経営管理職、教授・専門職、国会議員数では、男女間に差が大きいとの評価で世界ランクがいずれも100位以下。その中でも、最も低いのが閣僚数で139位。国会議員数でも135位とかなり低い。その他の項目でも50位以内に入った項目はゼロ。

　経済分野での日本のランクは、賃金格差が67位とこれでも最も高く、労働力参加79位、所得108位といずれもかなり低い。

　中国も男女差別がある国のように見えるが、高等教育と教授・専門職では男女平等と評価され世界ランク1位を取得。一方で中等教育、出生率、平均余命では男女差があると評価されており日本とは全く逆の傾向。ちなみに中国の国家議員数ランクは62位と日本よりもかなり高い。

　日本では、国会議員、政治家・経営管理職、教授・専門職、高等教育（大学・大学院）等、社会のリーダーシップを発揮すべき分野で、ダイバーシティは評価が著しく低い状態がずっと続いている。

**さて、あなたに問います**。(6)上記のシェンダー不平等ランキングを見て、どう思いますか？ 日本の121位という現状は、何が原因だと思いますか？

　例えば、

　これまで働いてきた会社での女性の地位・待遇を思い出して、彼女たちは平等に扱われていたか？　小学校、中学校、高校での学校生活において、女子生徒は平等に扱われていたか？

　自分の子ども（息子・娘）に対してのしつけや教育において、女性であることや男性であることを理由に、「こうあるべきだ」と教えたことはあるか？　例えば、「男／女なんだから〇〇ぐらい出来なければいけない」とか。

　日本の文化の特質として、女性の社会進出や能力発揮をさまたげているものはないか？　例えば、仏教の影響、神道の影響、武士道の影響、タテ社会、ウチとソトの文化、甘えの文化、稲作を基盤としたムラ社会など。

中島義道の答え。

差別をなくすために

1. あなたのなにげない誇りの中に、純粋な向上心の中に、あなたが至福を感じているそのときに、差別の芽は潜んでいます。なぜなら、そのとき、あなたは他人が見えなくなっているから。だから、それをほうっておくと知らずに差別感情に育っていきます。だから、**「自分は差別しているのだ」と自覚することが必要です。あなたのすべての行為に差別感情がこびり付いていることを認めることが必要です。**
2. その上で、「差別したい自分」と「差別したくない自分」とのせめぎ合いを正確に認識することが必要です。そして、差別感情に真剣に向き合いなさい。すなわち、**「差別したい自分」の声に耳を傾けて自分の差別したい心をえぐり出す努力をすることです。つまり、差別に苦しむ人の苦しさと同じほど苦しんで、自分の中に潜む怠惰やごまかし、冷酷さと戦うのです。**

以上